

「単位」だけじゃあ...！？ 成績の水準を数値化

多くの大学で、もうすぐ後期学期（秋学期）の成績が学生に通知される。長年、特に文系学生の関心は「単位が取れたかどうか」にあり、成績の良しあしはあまり重視されなかった。しかし近年は成績の重みが増し、大学が評価を厳格化したり、採用の際に判断材料に加える大手企業が増えつつある。「単位さえもらえればいい」と思っている学生は、認識をあらためた方が良さそうだ。（字井章人）

広がるGPA導入 成績の水準を数値化

大学の成績は「優、良、可、不可」または「A、B、C、D（F）」という原則4段階で、この上に「秀（S、Aプラスなど）」が乗る5段階評価が一般的。これに加えて、近年は「GPA」という評価法が広がってきた。

GPAは「グレード・ポイント・アベレージ」の略。秀を4点、優を3点、良を2点などと点数化して各科目の単位数を掛け、履修登録をした全単位数で割ってはいき出す総平均点だ。学業全体への取り組みや成績水準が分かるとして、米国のほとんどの大学で導入され、アジアでも広がっている。

日本では2000年度に67校だった実施校が、11年度は61%の453校に増えた。名古屋大の近田政博准教授（高等教育論）によると、中教審や大学の評価機関などが1990年代末以降、厳格な成績評価を大学に求めたことが背景にある。中教審は、08年には「GPAをはじめとする客観的な評価システム」による学修評価が「強く求められる」と強調した。



GPAの計算法の一例

科目	成績(GP)	単位数
プラトン研究	秀(4点)	2
西洋美術史	優(3点)	2
ラテン語初級	良(2点)	4
古典文学研究	不可(0点)	2

$$\begin{aligned}
 \text{GPA} &= \frac{(\text{各科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の合計}}{\text{履修登録した単位の合計}} \\
 &= \frac{(4 \times 2) + (3 \times 2) + (2 \times 4) + (0 \times 2)}{2 + 2 + 4 + 2} \\
 &= 2.2
 \end{aligned}$$

米国では2.0(平均が「良」)以上を卒業の条件にする大学が多い。この学生は、なんとか卒業可能

グローバル化への対応も理由の1つ。日本からの留学や外国人留学生の受け入れに際して、共通のものさしとして導入を迫られた。

ただ、GPA制度の導入がそのまま厳格な評価に結びつくわけではない。簡単に「秀」をくれる教員が多ければGPAは上がり、逆に評価が厳しい教授ばかりなら下がる。近田准教授は、留学を念頭に「故意に成績を上げれば実力とのギャップに相手校が不信感を持つ。逆に厳しく評価し過ぎると留学が受け入れられず、学生の不利益になる」と話す。

そこで大学側は成績の評価基準や方法を明確化し、講義内容を紹

2014 年 2 月 11 日 中日新聞 朝刊記事より

介する学生用冊子（シラバス）に明記。08 年度に G P A を導入した金城学院大（名古屋市守山区）は、10 年度からシラバスに評価方法の欄を新設して「授業参加度 10 %、課題 30 %、発表 30 %、試験 30 %」などと示す。同大の青柳裕教務部長は「かつては学期末の 1 回の試験で成績を決める大学が多かったのでは。近年は多面的に評価することで成績の信頼性を高めている」と説明する。

学生たちに聞くと「好成績を残すメリットがない。単位を取れるぎりぎりの評価で十分」（南山大 3 年女子）や「悪いよりいい方が気分がいいという程度」（中京大 3 年男子）などの声が多い。一方で「就職に影響すると聞いて好成績を目指すようになった」（金城学院大 3 年女子）との声もあった。

近田准教授は「G P A を含む成績厳格化の最大の目的は、教育の質と学生の意欲や成果の向上。現状では制度を形だけ導入する大学が多く、必ずしも本来の目的を十分に果たせていない」と指摘。「どうすれば授業の質が高まり学生が伸びるのか、各大学はもっと真剣に議論すべきでは」と話した。

「採用の参考に」の企業も

学生の成績を企業に伝える有料サービスを始めた N P O 法人「D S S」（東京都千代田区）の辻太一朗代表（54）は、成績を重視しなかったことを「就職に関係ないから」という。

辻代表は、成績が採用でほとんど評価されない現状を疑問視。「教員のいいかげんな成績評価と成績を信用しない企業。学業以外の課外活動に力を注ぐ学生。その負の連鎖が続いてきた」と話す。

D S S のサービスを利用する企業は、応募学生にウェブ上の専用ページで成績の登録を依頼。学生が打ち込んで送信すると、企業は G P A 換算の総平均点、取得単位に占める最高評価と最低評価の割合などを一覧できる。

利用を決めた約 50 社のうち、帝人の担当者は「社会ではやりたいことができる機会より、やらなくてはならないことが多い。その意味で、必修科目の成績を参考にしたい」と話す。

辻代表は「企業が『成績も参考にする』とメッセージを出すことで学生の学習意欲が上がれば、大学教育の質の向上につながる」と話した。

編集部 | 2014 年 2 月 11 日 14:38 pm

出典：2014 年 2 月 11 日 中日新聞

<https://edu.chunichi.co.jp/gakusei/?p=5400>